

2.2. 第二の問題：下部構造—上部構造 (p88.下1.23-p.89 下1.16)

- ・内容と表現が下部構造と上部構造に還元されないのはなぜか？

1. いわゆる経済的内容がすでに一個の形式と固有の表現の形式を備えていること

→表現は内容を反映する形式ではない

2. 上部構造—下部構造を用いると、以下のように諸々の概念が還元されてしまう／還元されえない

i. 内容と内容の形式 (<社会機械>) →生産の経済的の下部構造

ii. アレンジメント→上部構造の1階

iii. 記号の体制と表現の形式 (<記号機械>) →上部構造の2階

iv. 言語→「言語についてはもうどうしていいかわからなくなってしまう。」(p.89 上1.20)

- ・内容と表現を下部構造と上部構造に還元すると？

1. 言語の本性の誤解：相矛盾する秩序を配分するという言語の本性を見誤る

2. 内容の本性の誤解：「最終審級においては」経済的なものではない内容の本性を見誤る

2.3. 第三の問題：段階 (p.89 下1.17-p.90 下1.11)

- ・内容と表現のとり様々な形象が段階ではないのはなぜか？

1. 無媒介性：それぞれの地層が他の地層に対して無媒介に基層の役割を果たし得ること

2. 予測不可能性：どの地層がどの地層とどんな方向に交通するか、工業の時代においては予測できないこと

→存立平面の導出：「存立平面は、水準の差異や大きさの次元や距離を受けつけない。それは、人工的なものと自然なもの

のとどどんな差異も受けつけない。それは、内容と表現の区別も、形式と形式化された実質の区別もうけつけない」

(p.90 下1.6-1.9)

3. 諸概念の整理と要約 (p.90 下1.12- p.94)

3.1. 機械圏：抽象機械と機械状アレンジメントの総体

- ・抽象機械

1. 抽象機械の機能：<器官なき身体>を構築し、<脱領土化された存立平面>を生み出し、あるいはそこに生起することを「ダイヤグラム化」するもの (p92 下-p.93 上)

2. 抽象機械の二様態

i. <統合態>：抽象機械が、それに対応する一つの地層に包摂されたままとどまっている状態

ii. <平面態>：抽象機械が、脱地層化された存立平面状でそれ自体で発達していく状態

→抽象機械を現実化するものが機械状アレンジメントである

- ・機械状アレンジメント

1. 間層である：地層間の関係を調整し、各地層上の内容と表現の関係を調節するかぎりにおいては

2. メタ地層である：存立平面の方を向いて、抽象機械を現実化するために

→「機械状アレンジメントは、各地層上で内容と表現が交叉するところにあり、同時に、諸地層の総体と存立平面が交叉するところにある。」(p.94 上1.3-1.5)

3.2. 内容と表現の現実的区別 (三大タイプ)

- ・第一タイプ：もろもろの大きさの次元に関する現実的—形式的の区別

→第一の大きな地層群 (地質学上の、結晶の、物理学上の地層) における区別

- ・第二のタイプ：相異なる主体に関する現実的—現実的の区別

→有機的地層 (核酸、蛋白質、アミノ酸 etc.) における区別

- ・第三のタイプ：相異なる属性あるいはカテゴリーに関する現実的—本質的の区別

第三のタイプの地層 (人間における区別)